

～ 小寒と大寒 ～ 寒さがピークを迎える

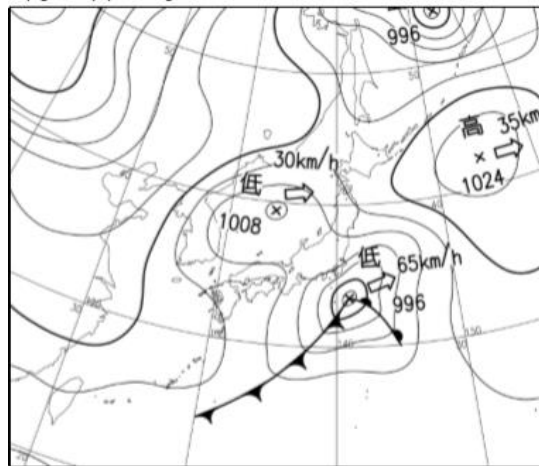
1月の二十四節気は、上旬の小寒（しょうかん）と下旬の大寒（だいかん）です。  
1年で最も寒さが厳しくなる時期です。

前月は北日本や日本海側に雪を降らせる、西高東低の気圧配置についてでしたが、  
今月は太平洋側に雪を降らせる、南岸低気圧についてです。

2018年1月22日から23日未明にかけて、東京都千代田区で23センチの積雪を記録しました。

このときの大雪や暴風雪により、東日本から北日本にかけての広い範囲で、道路の通行止め、鉄道の運  
休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が多く発生したほか、停電や水道凍結、電話が不通になるなど  
ライフラインにも被害が発生し、除雪作業中の事故も多発しました。

1月22日 21時



(出典：気象庁 HP)

(2018年1月22日21時の天気図)

実はこれも南岸低気圧の影響でした。南岸低気圧はその名のとおりに、日本の太平洋側を沿うように北東に進む低気圧です。

低気圧の中心の位置により微妙に天気が変わりますが、関東平野に近いと南側の暖気の影響が強くなり雨になり、離れすぎると北風の強い寒い1日となります。

上空の寒気の気温も関係しますが、低気圧の中心が八丈島あたりを通過するときに、関東平野に降雪をもたらす可能性が高くなります。

少しの積雪であれば風情もありますが、障害や災害は避けてもらいたいものです。

(次回は立春と雨水)

株式会社エーティーティーソリューションズ  
気象予報士 小川浩史